

# 新しい 授業づくりの 文化をつくる

令和5年4月24日  
「能力ベースの授業づくり実践講座」通信  
第1号 齊藤先生実演授業①

## ■講座の目的

- ①未知の問題場面に出会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力(資質・能力)を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校でのOJTに生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

今年度の目標は？

## ■講座の目標

令和6年度スタートにあたり、吹田市100%の教職員が学習指導要領に基づいた授業づくりを目指す。  
「学習指導要領に基づいた授業とは・・・である」を自分の言葉で語る。

そこで今回の講座では？



# 齊藤一弥先生の実演授業から学ぶ

学習指導要領の趣旨を踏まえ、これからの吹田の授業を創ることを目的とした本講座は2年目を迎えました。第1回となる今回は、1年目と2年目の受講者が同じスタートラインに立つために齊藤先生の実演授業から学ぶ研修会を設定しました。授業参観、協議会、講演会を通して「どんな資質・能力を育てるのか」を始発点(ベース)に、基準となる学習指導要領をどう読み、いかに授業をつくるのか受講者全員で確認することができました。

受講者の感想は？

授業の組み立て方を根本から変えないといけないと感じました。

「Less is more」  
少なく覚えて多くに生かすがとても響きました。  
中学校 N先生

初の能力ベース授業の参観でした。

言葉では「どんな力をつけるか」分かっているつもりでしたが、実際の授業の中でどう力をつけていくのかとても勉強になりました。  
また、能力ベースは小学校からの積み重ねが大切だと分かったので、各学年に合わせた授業を考えたいと思いました。  
小学校 M先生

1年目の学びが今につながっていることを実感できる日でした。

プロセスに目を向けて、汎用的な資質・能力の育成を図っていきたいなと思いました。授業の答えでなく、つくり方や今考えられるプロセスを考えることができ、自分の(クラスの)子供達も有能さを信じて授業をつくっていこうと思いました。  
一期生 中学校 Y先生

協議の視点は？

学習指導要領に基づく授業 3つの視点

## Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき  
資質・能力は？

## What

何を学ぶのか

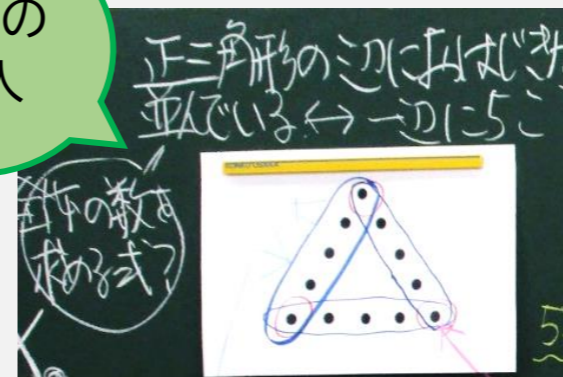
子供達の  
学習対象は？

## How

どのように学ぶのか

子供達の  
学習過程は？

本時の導入



齊藤先生実演授業の  
詳細は裏面へ

数学的な見方・考え方を働かせ、**数学的活動**を通して、**数学的に考える資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

これまでの学習指導要領は「何を知っているか？」という「内容」の習得、いわゆる知識・技能の獲得を優先に行われてきた「内容ベース」の授業であった。しかし上記の通り、現行学習指導要領の教科目標には、内容は示されていない。「何ができるのか」「どのような問題解決を成し遂げるのか」という「能力」を身につける、「能力ベース」の授業へ変わった。それが一番の大きな転換。

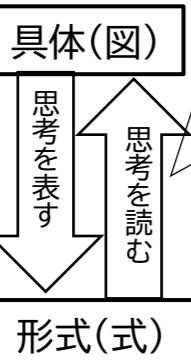
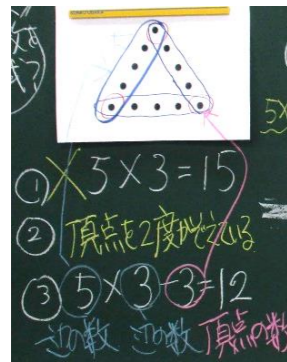
ここがポイント

# Why なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

## なぜ「文字と式」を学ぶのか？

本時で育てたい資質・能力① 文字の式から思考プロセスを読む

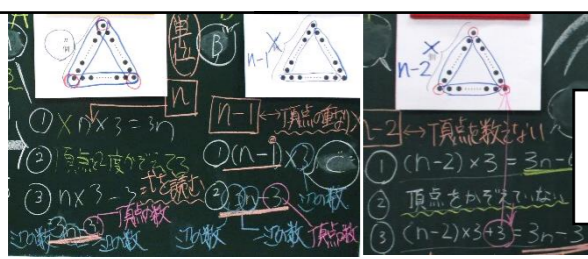


式は、非言語テキストと言われる。簡単に言えば「数学の文章」と言える。式には表した人の思考が表出されている。式が出てきたときに「この人は・・・に考えたのだろう」と分かる子供に育てたい。「式は読むもの」この考え方は小学校の算数のCS解説にも繰り返し出てくることである。小学校での学習が重要。その経験の中で、式の働き・役割・良さに気づいていく。

本時で育てたい資質・能力② 統合的に考察する

統合的に考察することは、他教科にも出てくる。統合的に考察するとは、同じもので束ねてラベルをはる。たくさん覚えるのではなく、少なく覚えてより多くの仕事をする。公式を覚えるのではなく、統合的に考察し自分たちでつくる。Less is more!! これは、能力ベースの基本である。

ABC 比べてみて気づくことはありませんか？



単位は違うけれど全て同じ式になる！

統合

# What 何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

## 「文字と式」で何を学ぶのか？

内容知と方法知から問い直す

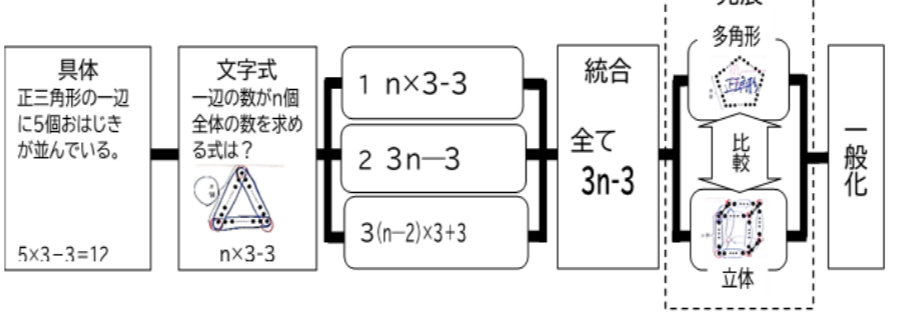
各教科の目標の柱書には「学習過程」が出てくる。数学であれば「数学的活動を通して」と書かれている。つまり、学習の方法は教えていかなければならない(方法知)。方法を教えていかなないと「学び進む子供」にならない。

本時で学習した「内容知」—文字を用いる良さ・可能性

文字ができる仕事を知らせてあげたい。本時では「一般化」。言い方をかえると「抽象化」。本時では、事象の構造を抽象化した。「形は違うけれど、構造は同じ」文字は図形や関数などのあらゆる場面で活躍する。今後の学習につなげていくためにも、文字を用いる良さに気づかせたい。

本時で学習した「方法知」—追究するプロセス

追究し続ける姿勢(粘り強く追究する・問題の過程を振り返り評価・改善する)を学ばせたい。しかし、追究するプロセスを知らなければ追究できない。だから、追究のしかたは指導していかないといけない。



# How どのように学ぶのか

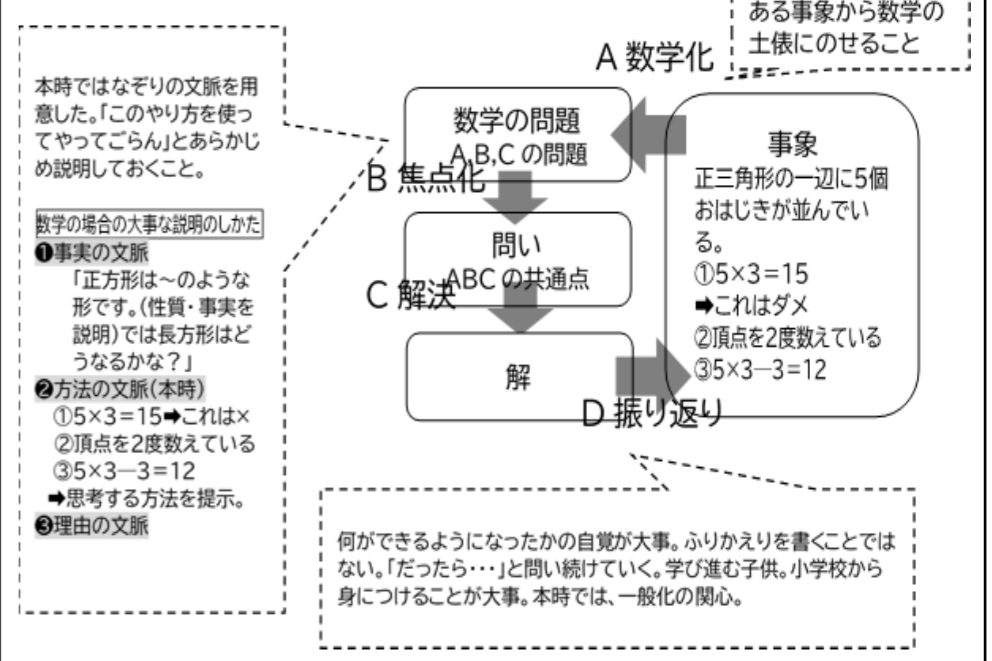
子供達の学習過程は？

## 「文字と式」をどのように学ぶのか？

数学らしい文脈を描く⇔算数的活動

学習者主体の授業を目指すためには、追究するプロセスといった学習方法を指導していかないと、教科の本質としての学びの方向に向かわない。

数学的活動のプロセスには、4つのフェーズがある。しかし型ではない。数学らしく物事を追究していく思考のプロセスである。これがどんな授業のスタイルで実現するかは多様である。ここは間違っはならない。

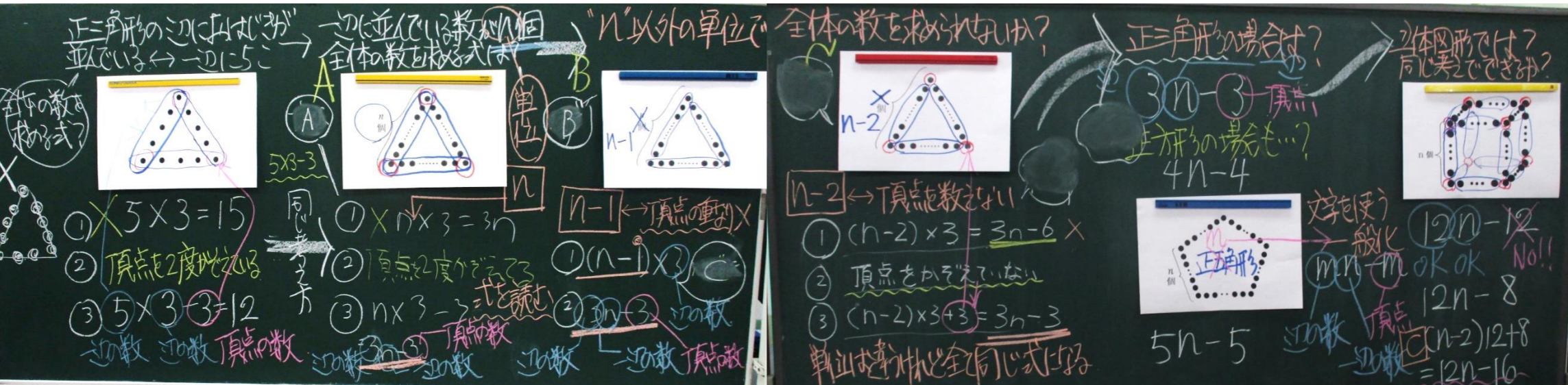


本時ではなぞりの文脈を用意した。「このやり方を使ってやってみよう」とあらかじめ説明しておくこと。

数学の場合の大事な説明のしかた

- ①事実の文脈 「正方形は～のような形です。(性質・事実を説明)では長方形はどうなるかな？」
- ②方法の文脈(本時) ①5x3=15 → これは× ②頂点を2度数えている ③5x3-3=12 → 思考する方法を提示。
- ③理由の文脈

何ができるようになったかの自覚が大事。ふりかえりを書くことではない。「だったら・・・」と問い続けていく。学び進む子供。小学校から身につけることが大事。本時では、一般化の関心。



【編集後記】  
講座後のアンケートには受講者の「学ぶ楽しさ」や「成長実感」が綴られていた。読みながら、自分も元気づけられたようでうれしかった。受講者が齊藤先生と共に1年間学び続けた証であると感じた。

本時では、二中の生徒たちが授業の中で「方法知」を学んだ。私たちも、学び進む集団となるよう鍛えていかなければならない。受講者一人ひとりが「学習指導要領に基づく授業とは何か」の問いについて粘り強く追究し、問題の過程を振り返り評価・改善していく—そんな「追究し続ける1年」であってほしい。  
(文責:教育センター山笠)